

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

「時」を意味する「Chronos (クロノス)」と「Kairos (カイロス)」という二つの言葉があります。「クロノス」はすべての人に公平に与えられる客観的・物理的な時間であり、「カイロス」は主観的な時・機(機会)を意味します。

酪農学園はその母体となる『北海道酪農義塾』が1933年に創立し、1942年には『興農義塾野幌機農学校』として成長を続け、現在に至っています。創立者・黒澤酉蔵は「機農学校」の「『機』とは『天地経綸というか大自然の運行のこと』」であると述べ、「『機を知るは農のはじめにして終りなり』」との言葉を残しました。ここに神から与えられる「機(時)」に込めて、「クロノス」が「カイロス」になり、『神を愛す』(常に真理とは何かを追い求める)ことが現れているのではないのでしょうか。

エフェソの信徒への手紙を書いた使徒パウロは、イエス・キリストに現れた神の愛から新しい価値を学ぶ人々に、生き方についても新しく生きるように勧めています。「時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。」と、悪い時代とは誘惑の多い時代、混乱の時代などが考えられます。だから、時を分別しながら、賢い人の時間(人生)を用いていかなければなりません。それは、喜びと感謝であり、現在(here and now)を大切に生きることでありましょう！



【緑音館の前に『機農』と刻まれている石碑】

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝(前学期終業礼拝)】2026年7月28日(火)10時40分

聖書：ヨハネによる福音書 6章 41-43節

奨励：「未来を切り拓く——可能性を閉ざさない」小林昭博(宗教主任)

讃美歌：2編 164番(勝利をのぞみ)、1編 312番(いつくしみ深き)

【前回の大学礼拝】2026年7月14日(火)

学生：156名 教職員：7名 CCC：30名 合計：193名 茶話会：140名

【大学礼拝週報】2026年度 第14号(前学期第14号)

2026年7月21日(火) 午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司式 小林昭博(宗教主任・循環農学類教授)

奏楽 佐藤理恵(日本基督教団野幌教会オルガニスト)

讃美指導 相原晴伴(農環境情報学類長・教授)

前奏 神家をかえりみたまわずば(J.C.バッハ作曲)

讃美歌 21 43-3番(主よ、おいでください)

聖書 エフェソの信徒への手紙 5章 15-20節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨励 「賢い人の時間——here and now」朴美愛(学園宗教主事)

祈り

讃美歌 21 470番(やさしい目が)

報告

後奏 われらは信ず(ラング作曲)

【本日の聖書】エフェソの信徒への手紙 5章 15-20節(新共同訳)

15 愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。 16 時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。 17 だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。 18 酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもとです。むしろ、霊に満たされ、 19 詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。 20 そして、いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。

【奨励】「賢い人の時間——here and now」

皆さんにとってこの一学期はどのような時間でしたか。ギリシャ語には